



Racing Specialities

保存版

ツアークロス3 *Tour Cross-3*

取扱説明書 Version 4.0

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただきため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です、国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守っていただきたいこと。

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願ひいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合ってないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる！」といった事は、最近ではありません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

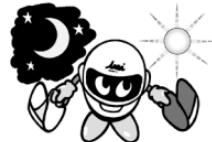
あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れであご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

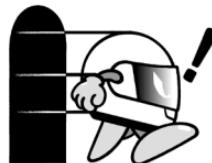
▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなってきたにも関わらずスマートシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を食器洗い用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしましますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。



▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。



▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行ってください。



▼ヘルメットの性能は永久不变ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSG被害者救済制度



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態で1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。



※例え1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。

▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧歯類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数列等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。



▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について

シールドは、ポリカーボネイト樹脂を原料とする「金型射出成形」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

▼ベンチレーションダクトについて

- ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。
- トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行つてください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋をつよく閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。
- 暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▼つや消し塗装のヘルメットについて

- つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしましますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めてご使用ください。
- つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。
- つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

シールドカラーの選び方



晴天

晴れの日は、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が充分に明るい時間帯に限りご使用ください。



曇り・雨

曇りや雨天の走行には、クリアーシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

夕方や夜にはクリアーシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーには、ライトスモークシールド・セミスモークシールドがお勧めです。

FCSを採用したヘルメットのかぶり方



FCSは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかりと持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っぱり、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。

▼エマージェンシータブについて

エマージェンシータブとは、救護者が傷病者のヘルメットを脱帽させる前段階として、脱帽時の抵抗となる頬パッドの除去をスムーズに行うことを目的としたシステムです。救護者は、頬パッドのカバー等に縫い付けられた目印（ETポイントラベル）で傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。



エマージェンシータブによる頬パッドの除去は、当システムを十分に理解した上で、ヘルメット脱帽の訓練を経験した救護者によって行ってください。尚、事故状況や傷病者の状態によっては、エマージェンシータブが頬パッドの取り外しを確実に行なう有効な手段とならない場合があります。



ヘルメットを置く際にはご注意を

当ヘルメットの裾カットには、アーチ状に湾曲する【ハイパーカット】が採用されています。ハイパーカットのヘルメットを平面上に置くと左右にグラグラする傾向がありますので、ヘルメットを置く際には十分ご注意ください。



アドベンチャータイプのバイクをお持ちのお客様から高い支持を得るツアーコロス3を、より快適にお使い頂けるよう、幾つかのマイナーチェンジを行いました。

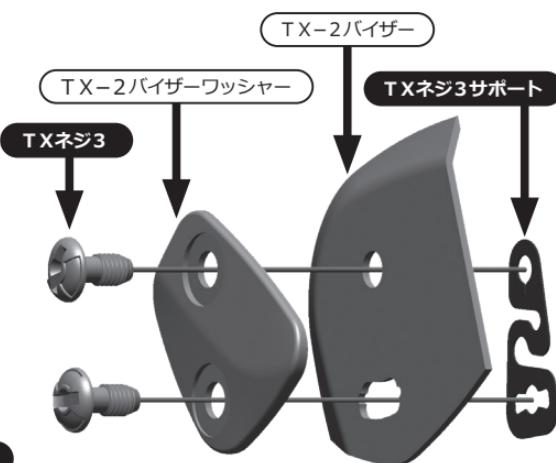
【サポートフレーム】

従来型TX-2バイザーは高速走行時の風圧による振動を抑制する「サポートフレーム」は別体式でしたが、TX2PⅡ型TX-2バイザーでは一体化されました。



【TXネジ3】【TXネジ3サポート】

TX-2バイザーの取り付けに必要なパーツがTXネジ3サポートによってバイザー側に保持され、TX-2バイザーをヘルメットから取り外した時にネジやワッシャー類がバラバラになりません。



従来型ネジを採用したツアーコロス3の場合でも、TXネジ3サポートが付属した別売りオプションパーツのTXネジ3（ネジセット）を取り付けると、上記と同じ取り扱いが可能となります。



ヘルメットからバイザーを外す際は

ヘルメット側のネジ穴からネジ先が抜けるところまで、
上下のネジを交互に少しづつ緩めてください。

片方だけネジを緩めると、TXネジ3サポートがネジから外れて、バイザー側にワッシャーとネジが保持されませんので、ご注意ください。

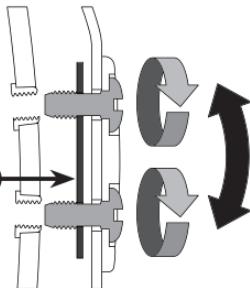
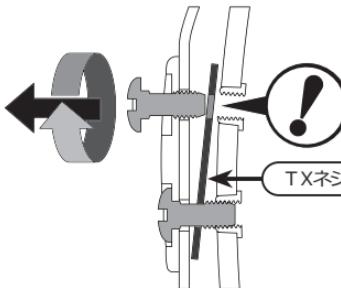


片方だけネジを緩めるとTXネジ3

サポートが脱落します。

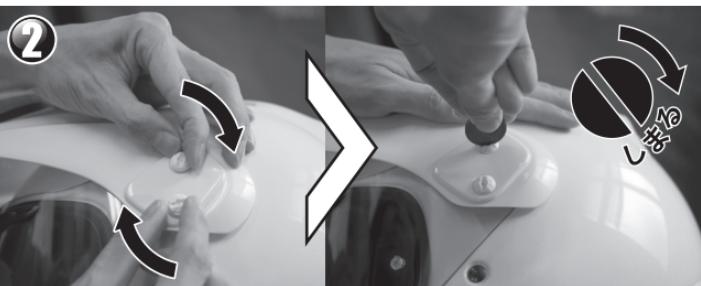
ネジは交互にバランスよく緩めてく

ださい。



ヘルメットにバイザーを付ける際は

- ①バイザーアッセンブリーをヘルメットにかぶせ、隙間から覗いてネジ先とヘルメット側のネジ穴の位置を合わせます。
- ②ネジが咬み合うまで手で片方ずつ回し、ネジが咬み合ったら二つ同時に指で回します。指で回せなくなってから10円玉などの硬貨で締めます。



バイザーアッセンブリーとは、TXネジ3とTXネジ3サポートによって、取り付けに必要なパーツがすべて一体化したものです。



TXネジ3サポートの付け方

TXネジ3をTX-2バイザーワッシャー→TX-2バイザーの順に通し、バイザー裏面に突出したネジ軸の細くなっている根元部分までTXネジ3サポートをはめ込みます。



ヘルメット側のベースプレートから突き出たピンと干渉するおそれがありますので、TXネジ3サポートは必ず細い方を上向きに取り付けてください。



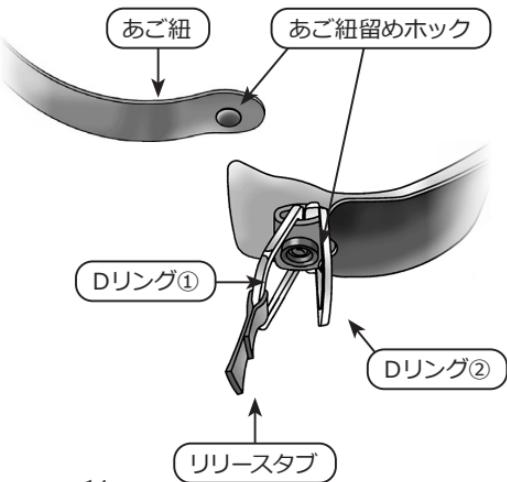
目 次

A	あご紐の正しい締め方	14 ~ 15 ページ
B	ブローシャッターの操作	16 ページ
C	シールドの開閉	16 ページ
D	TX-3シャッターの操作	17 ページ
E	エアロフラップの操作	18 ページ
F	TDF-3ダクトの操作	18 ページ
G	MD-2の操作	19 ページ
H	MD-2カバーの着脱	19 ~ 21 ページ
I	各スタイルへの変更	22 ~ 25 ページ
J	システムパッドの着脱	26 ~ 27 ページ
K	パッドカバーの着脱	28 ~ 29 ページ
L	システム内装の着脱	30 ~ 31 ページ
M	ストラップカバーの着脱	32 ~ 33 ページ
N	ヘルメットのお手入れ方法	34 ~ 35 ページ
O	ヘルメットサイズの調節	36 ページ
P	オプションパーツリスト	37 ページ
	内装生地のコットン化について	38 ページ

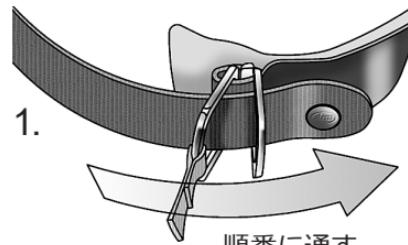
A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願ひいたします。

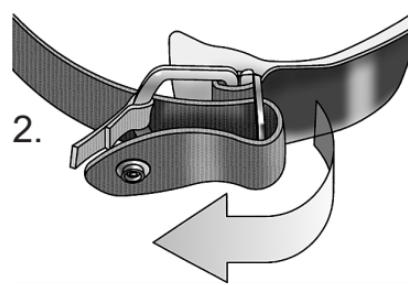
あご紐の各部名称



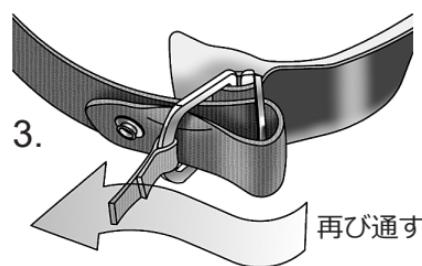
1. 二つのDリングに通す
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。
※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないようにご注意ください。



2. あご紐を180°折り返す
二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱってゆるみを取り除きながら180°折り返します。

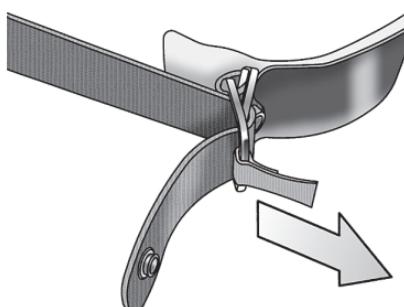
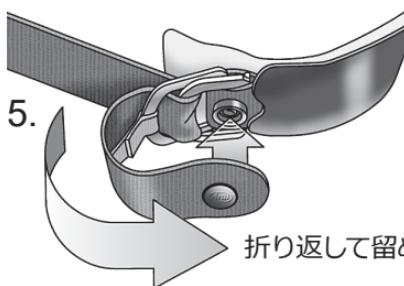
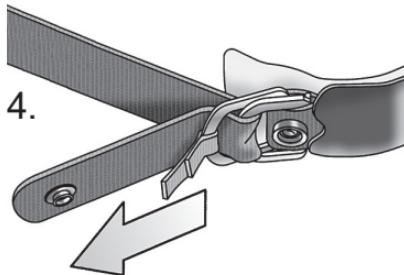


3. Dリング①に再び通す
折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



危険

あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。



4. あご紐を引っぱる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っぱると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1~2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端を【あご紐留めホック】で留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

リリースタブの使い方

【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。



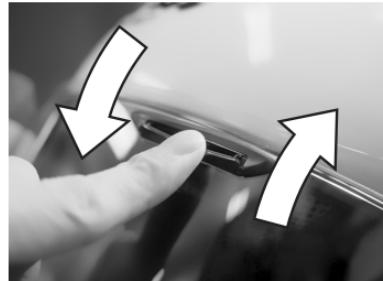
あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。
【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。



B ブローシャッターの操作

シャッターフィン中央に指をかけて引き下げると開きます。閉じる時は、シャッターフィンを止まる位置まで押し上げます。

雨の日にはシャッター閉じてください。



C シールドの開閉

①シールドオープン

シールドを開くにはシールドロックの解除を行う必要があります。シールドの左下の黒いロックレバーの下に指をかけ、外側に少し広げながら上げるとシールドロックの解除とシールドオープンが同時にできます。

②シールドクローズ

シールドを閉じる際はロックレバーを持ち、パチン!と止まる位置（ロック位置）までシールドを下ろします。シールドを外側に広げる動作（①のロック解除動作）を行わずにシールドを上げてみて、シールドがロックされて開かなければOKです。



シールドロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。



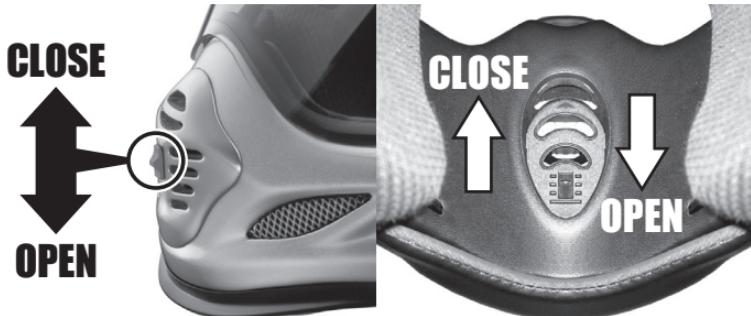
ロックの解除の動作を行わずにシールドを無理に開くと、ロックレバーやヘルメット側のロックベースが破損します。



D TX - 3シャッターの操作

① TX - 3シャッターの開閉

シャッター中央のスイッチを下げるときシャッターが開き、上げると閉じます。



② インナーシャッターの開閉

インナーシャッター表面のプレートを下げるときシャッターが開き、上げると閉じます。

Induction Mode

内外両方のシャッターを開くときインダクションモードとなり、流入した空気はストレートに口元に導かれます。



Defrost Mode

インナーシャッターのみ閉じるとデフレストモードとなります。流入した空気はシールド内面に向けて吹き出してシールドの曇りを軽減します。



F. F. Sスリットの開閉

センターパッド左右下部の丸い突起を前に動かすと、F. F. Sスリットのシャッターが開きます。後方に動かすとシャッターは閉じます。

左右のメッシュインテークからの空気がスリットから吹き出し、口元のこもりを解消するF. F. S (フリーフローシステム) として機能します。



OPEN

CLOSE

E エアロフラップの操作

①フラップの展開

フラップ下部中央を摘まんで
矢印の方向に引き出します。



②フラップの格納

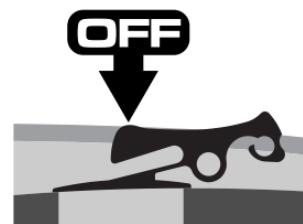
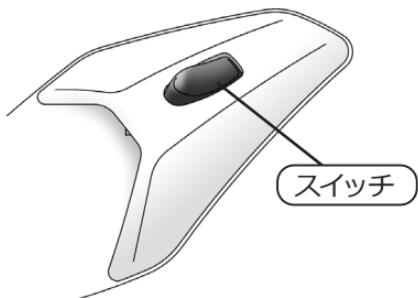
フラップ下部中央を矢印の
方向に押し上げます。



フラップを止まる位置以上に無理に引き
出すと、フラップが脱落するおそれがあ
ります。尚、ヘルメットの着脱時や持ち
運ぶ際には、エアロフラップを内部に格
納してください。

F TDF3ダクトの操作

上面のスイッチの後方を押すとシャッターが開きます。スイッ
チの前方を押すとシャッターは閉じます。

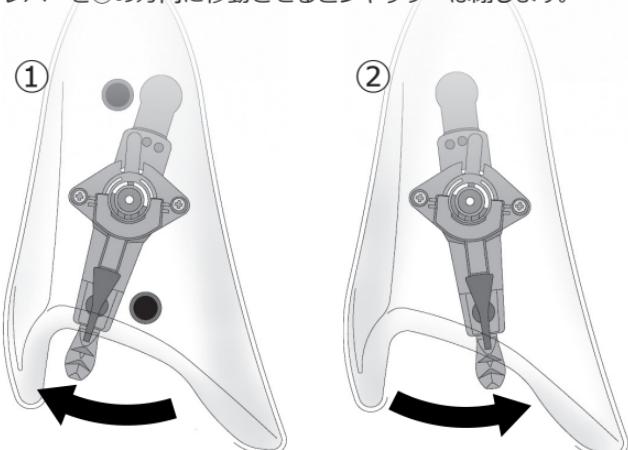


G MD-2の操作

■MD-2シャッターの開閉は、排気孔から突き出たレバーによって行います。

レバーを①の方向に移動させるとシャッターが開きます。

レバーを②の方向に移動させるとシャッターは閉じます。



可動範囲以上にレバーを動かすと、レバーの回転軸が
破損しますのでご注意ください。

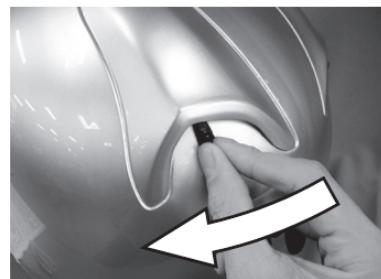


H MD-2カバーの着脱

MD-2カバーの外し方

①開閉レバーの位置確認！

シャッターレバーを、ON（全開位置）に動かします。

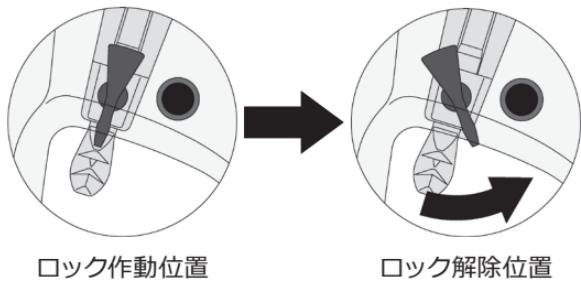


MD-2カバーを外周の段差以上に無理に動かすと、カバーをヘルメットに固定するジョイント基部が破損するおそれがあります。

②リリースロックを解除！

シャッターレバーはカバーリリースを兼ねています。シャッターレバー上の『カバーリリースロック』を、それぞれ下図の位置に移動させ、カバーをリリース可能な状態にします。

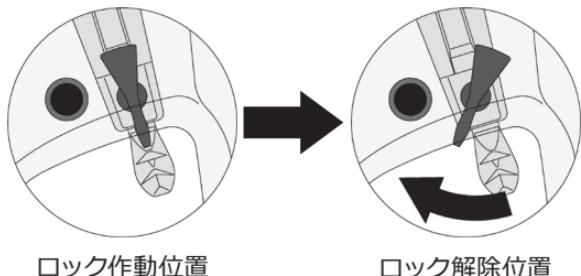
左側ダクトの排気孔



ロック作動位置

ロック解除位置

右側ダクトの排気孔

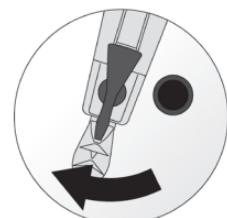
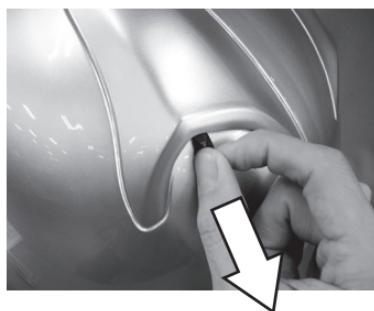


ロック作動位置

ロック解除位置

③シャッターレバーを引く！

シャッターレバーを開と閉の中間の位置に移動させ、レバー先端をしっかりと握り、矢印の方向に引くとカバーを取り外すことができます。カバーを外したら、カバーリリースロックを元の位置（ロック作動位置）に戻しておいてください。



リリースロックを元の位置に！

シャッターレバーを引いた瞬間、カバーがヘルメットからパコッ！と勢いよく外れることがあります。カバーを落とさないようにご注意ください。



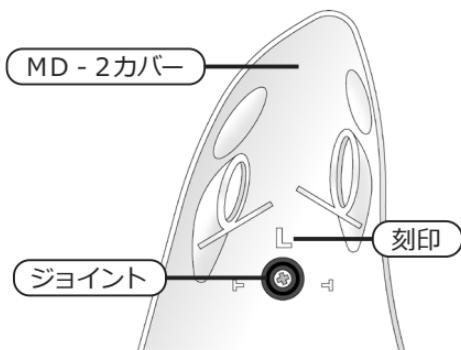
MD-2カバーの付け方

①カバーの輪郭をヘルメットの段差に合わせる！

カバー裏面の刻印で左右を確認し、カバーのアウトライン（輪郭）と、ヘルメットに設けられた段差のラインとを合致させます。

②カバーの中央部を押す！

ヘルメットの段差ラインとカバーのアウトラインとがズレないように注意して、カバーの中央（裏面にジョイントのある位置）をカバー上からパチン！と押し込んでください。

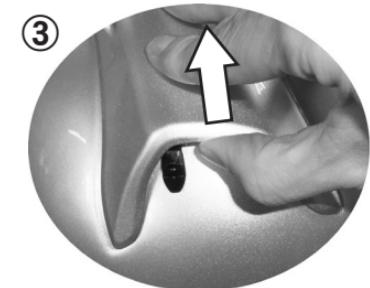


★の部分を上から押し込みます



③取り付け後の確認！

パチンと音がしても、ロックが不十分な場合があります。右写真のように排気孔に指をかけ、少しだけ力を加えてカバーが外れないことを確認してください。



I 各スタイルへの変更



シールドとバイザーを同時装着したデュアルレーパーパス仕様。



バイザーのみを装着したオフロード仕様。



シールドとTXホルダー*を装着した個性的なターミネーター仕様。

*TXホルダーは別売りです

I ヘルメットのセットアップ (デュアルレーパーパス仕様)

必要な部品	TXネジ4本	Uリング2個	TX2バイザーワッシャー	TX-2バイザー	TXピンロック ブローシールド

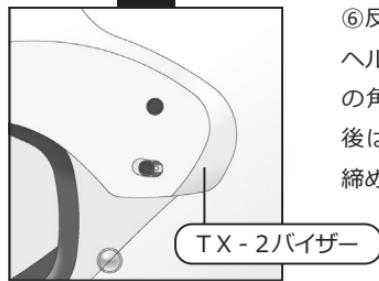
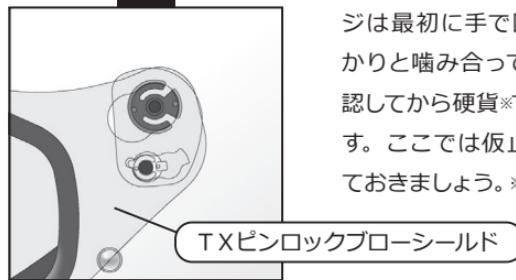
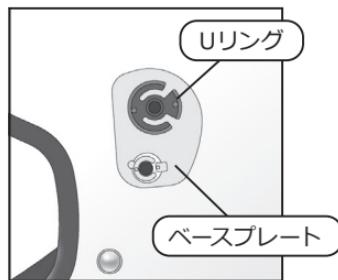
①Uリングは向きが異なるとベースプレートに取り付けることができませんので、向きに注意してベースにリングをはめ込んでください。※図は左側です

ベースプレートは両面テープで固定されています。無理に剥がさないでください。



②次に、Uリングが合体したベースプレートにTXピンロックプローシールドを取り付けます。シールド端の二つの穴、ベース上の二つのリングに各々はめ込んでください。

③次に、TX 2バイザーを被せます。ヘルメットのネジ孔とバイザーの孔が合致するように、バイザー角を調節してください。



④TX 2バイザーワッシャーの裏側の刻印でワッシャーの左右を確認して、バイザー上に被せてください。

TX 2バイザーワッシャー



⑤TXネジを取り付けます。ネジは最初に手で回して、しっかりと噛み合っているのを確認してから硬貨※で締め付けます。ここでは仮止めにとどめておきましょう。※五百円硬貨を推奨



⑥反対側も取り付け終えたらヘルメットをかぶり、バイザーの角度調節を行います。調節後は全てのネジをしっかりと締めてください。



ヘルメットのセットアップ(オフロード仕様)

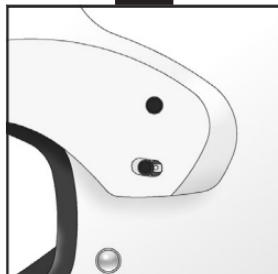
必要な部品	TXネジ4本	Uリング2個	TX - 2バイザーワッシャー	TX - 2バイザー
-------	--------	--------	-----------------	------------

①バイザーのみ取り付ける場合にもUリングは必要です。向きに注意してベースにリングをはめ込んでください。

※図は左側です



②次に、TX 2バイザーを被せます。ヘルメットのネジ孔とバイザーの孔が合致するように、バイザー角を調節してください。



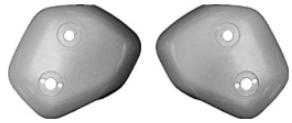
③TX 2バイザーワッシャーの裏側の刻印でワッシャーの左右を確認して、被せてください。



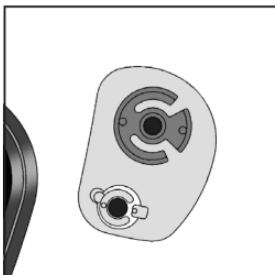
④TXネジを取り付けます。ネジは最初に手で回して、しっかりと噛み合っているのを確認してから硬貨※で締め付けます。※五百円硬貨を推奨



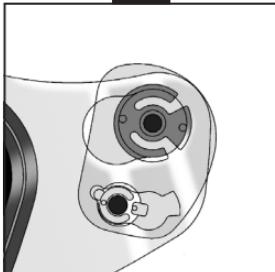
ヘルメットのセットアップ (ターミネーター仕様)

必要な部品	TXネジ4本	Uリング2個	TXホルダー (オプション)	TXピンロックプローシールド
				

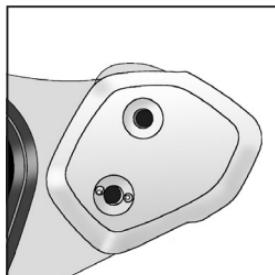
①Uリングは向きが異なるとベースプレートに取り付けることができませんので、向きに注意してベースにリングをはめ込んでください。※図は左側です



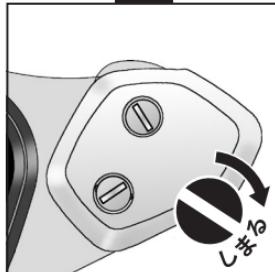
②次に、Uリングが合体したベースプレートにTXピンロックプローシールドを取り付けます。シールド端の二つの穴を、ベース上の二つのリングに各々はめ込んでください。



③TXホルダーのパーツ台紙の左右表記や、TXホルダー裏のL / R刻印でホルダーの左右を確認して被せてください。



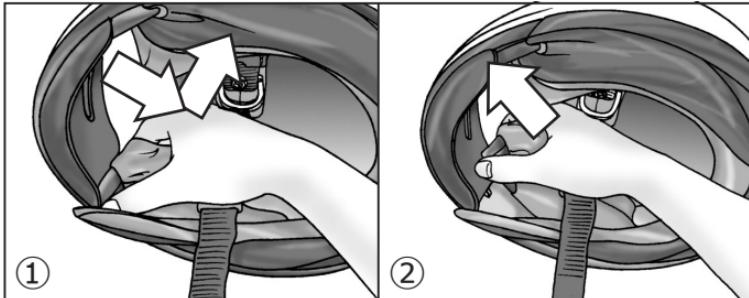
④TXネジを取り付けます。ネジは最初に手で回して、しっかりとネジ山が噛み合っているのを確認してから硬貨※で締め付けます。※五百円硬貨を推奨



J システムパッドの着脱

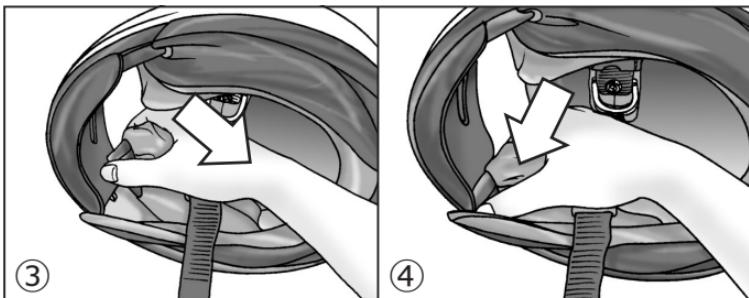
システムパッドの取り外し

- ①システムパッドの前方を掴み、後方に向かってスライドするとシステムパッド前方のロックが解除されるのでシステムパッド前方を持ち上げます。
- ②システムパッド前方が外れたら、システムパッドを斜め前方に抜き取ります。



システムパッドの取り付け

- ③予め、システムパッド中央の穴にあご紐を通しておきます。システムパッドは後方から先にヘルメットにはめ込みます。
- ④システムパッド前方をロックされるまで上から押し付けます。取り付け後、システムパッド前方を上下左右に動かしてもシステムパッドにガタつきが生じなければ取り付けは完了です。

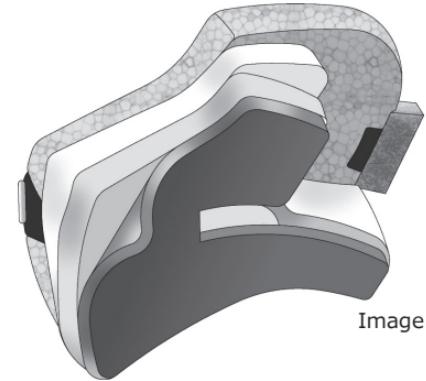
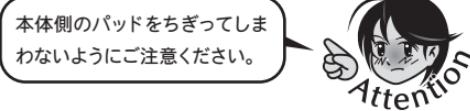


システムパッド内の緩衝体は、強い力を加えると折れてしましますのでご注意ください。また、システムパッド中央の穴にあご紐を正しく通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。そして、システムパッド未装着で使用するのもヘルメットの装着安定感が失われて大変危険です。

■当システムパッドには、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】が採用されています。この調節パッドを取り除くことで、パッドの厚みを約4mm薄くできます。

調節パッドの取り除き方

システムパッドからカバーを外し(次ページを参照)、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは、本体パッドにストライプ状に部分接着されているので簡単に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺物に誤ってくっ付けないようにご注意ください。



K パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

システムパッド後部の爪の部分よりパッドカバーを外します。そして、パッドカバー全体をパッド本体から外します。次に、システムパッド裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ち、パッドカバーを引き出します。

パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。取り外したパッドカバーは、洗濯機で洗うことができます（洗濯ネットの使用を推奨）。



パッドカバーの取り付け準備

■システムパッド本体とパッドカバーの左右を確認します。

パッド本体とカバーには、左（Left）右（Right）の表示ラベルが付いています。

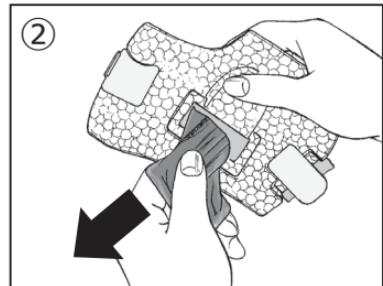
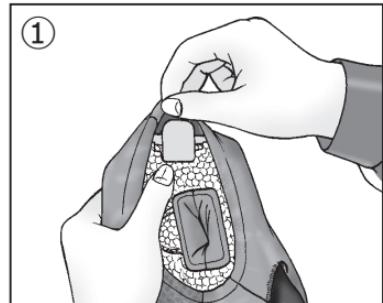
※システムパッドの説明図では、エマージェンシータブ等は省略されています。



パッド本体の表示



カバーの表示



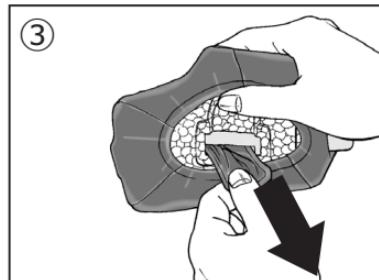
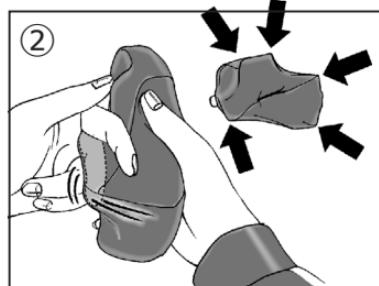
パッドカバーの取り付け

図①のように、パッド本体に前方からカバーをかぶせます。この時、【ETポイントラベル】がパッドの前方下部に位置するようにカバーの位置を調節してください。尚、【エマージェンシータブ】はシステムパッドに密着させてパッドカバーで覆ってください。



カバーをかぶせた直後はウレタンの角がカバーに押されて丸まっています。このままでかぶり心地に影響するので、ウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、図②のようシステムパッドの頬にあたる面の中央の孔に指を入れ、図②の矢印で示した部分のパッドカバーを指先でグイッ！と引っぱり上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。

最後に図③のようシステムパッドの中央の孔にストッパーを縦向きにして通し、システムパッド裏面の四角い窪みにキチンと收めます。



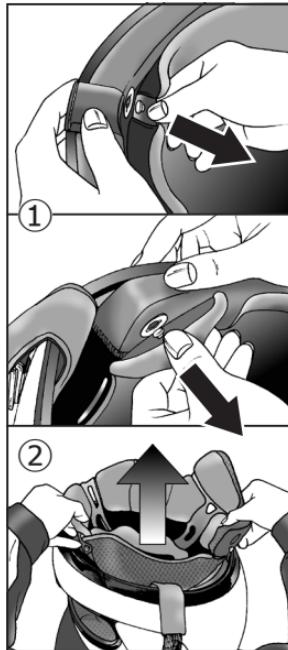
システムパッドからエマージェンシータブを引き出した状態でヘルメットを使用するのはお止めください。ループ状になったエマージェンシータブが、突起物や周辺物に引っ掛かるおそれがあります。

L システム内装の着脱

内装の外し方

①システム内装は四つのスナップで取り付けられています。それぞれのスナップのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っ張ってスナップを取り外してください。

②システム内装をヘルメットから取り出します。



内装の付け方

①システム内装の向きに注意して、ヘルメット内に入れます。

②システム内装のそれぞれのスナップ位置を合わせて押し込みます。取り付け完了後に内装の歪みを整えてください。



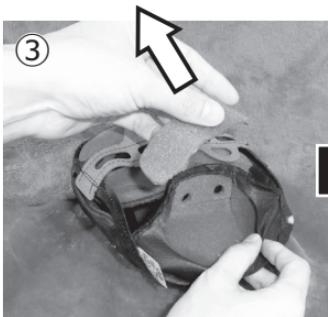
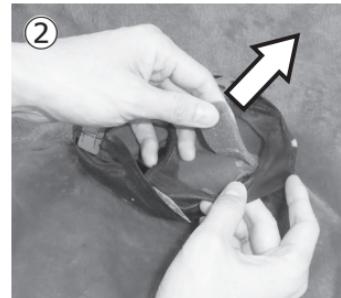
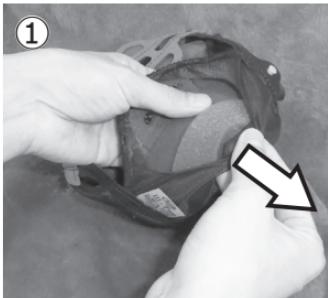
ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗用手袋をヘルメット内に入れるとき、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に装備されたプロテクターやエアーダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

■システム内装のサイドパッドには、容易に剥がすことができる【調節パッド】が貼り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を4mmほど薄くできます。

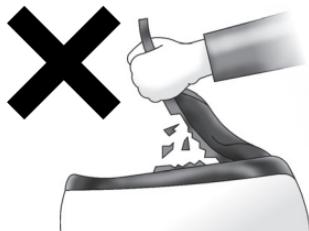
①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の、外側のポケットをめくります。

②調節パッドは、パッドの本体側に粘着テープで部分止めされているので丁寧に剥がしてください。

本体側のパッドをちぎってしま
わないようにご注意ください。



③調節パッドを取り除き、ポケットを閉じてシステム内装の形を整えます。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺物に誤ってくっ付けないようにご注意ください。



ネックパッドは外すことができ
ませんのでご注意ください。



M ストラップカバーの着脱

ストラップカバーの取り外し

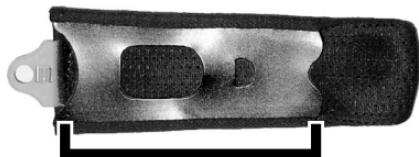
①あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかりと持ちます。

②カバーハンガーを上方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。

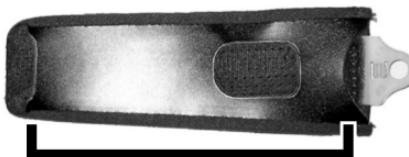
③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側も同じ手順でストラップカバーを外してください。

ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



左側 (合皮部分が短い)



右側 (合皮部分が長い)

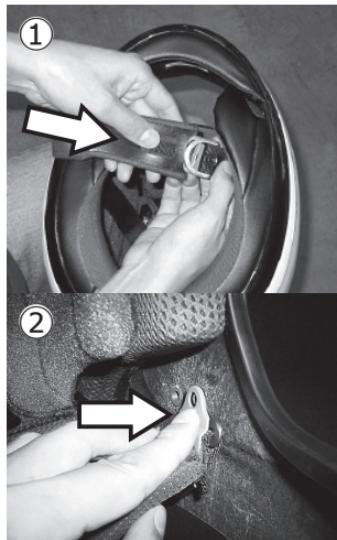


左側ストラップカバーの取り付け

- ①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のあご紐をカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。

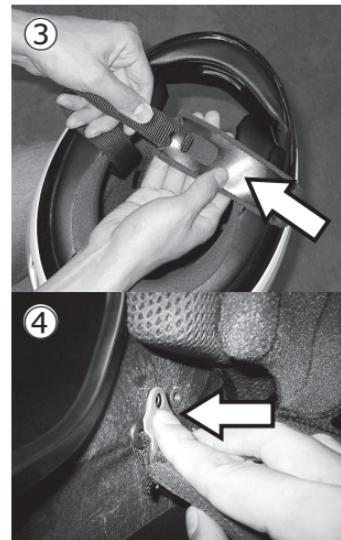


右側ストラップカバーの取り付け

- ③カバーの裏（合皮側）を手前に向け、長い方のあご紐をカバーに差し込みます。
- ④カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



カバーの途中の穴に指を入れて送り出すと、あご紐を楽に通すことができます。



ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

N ヘルメットのお手入れ

パーツ類のお手入れ (中性タイプの台所用洗剤をご使用ください)

バイザーやワッシャー、ダクトなどのパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



シールドのお手入れ (中性タイプの台所用洗剤をご使用ください)

シールド表面にオイルやワックス、ガソリンなどが付着すると、目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは、薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で充分に灌いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。



ヘルメット本体の洗い方 (中性タイプの台所用洗剤をご使用ください)

ヘルメット本体を丸洗いする時は、ヘルメットからバイザーやシールド、着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で充分に灌ぎ、ペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所に、ヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしましますのでご注意ください。

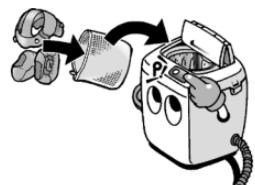


内装のお手入れ (中性タイプの洗濯用洗剤をご使用ください)

フルシステム内装（システム内装・システムパッドのカバー・あご紐カバー）をヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装は内装の枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終えたら水でよく灌いで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



冷・乾仕様の内装は、路面に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた場合は新しい内装をお買い求めになり、交換を行ってください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず「お洗濯ネット」に入れ、ソフト・弱・手洗いなど素材に負担をかけないモードを選択してください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。※

※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

0 ヘルメットサイズの調節

■標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

システム内装による頭回りの調節

【54と55 - 56】そして【57 - 58と59 - 60未満】には其々共通の内装枠が使用されています。この事により表のような頭周りの微調整が行えます。内装枠サイズはギリシャ数字（I～V）で表示されています。この枠の数字が異なると取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットのサイズ(cm)	内装枠サイズ・パッドの厚み(mm)		
54	II-7	II-10	
55 - 56		II-7	II-10
57 - 58	III-7	III-10	
59 - 60未満		III-7	III-10
61 - 62未満		IV-7	
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

システムパッドによる頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通です。基本的に全サイズのヘルメットに、どの厚さのシステムパッドも取り付けることができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

ヘルメットのサイズ(cm)	システムパッドの厚み(mm)		
54	25	30	
55 - 56			30
57 - 58	20	25	
59 - 60未満	15	20	25
61 - 62未満	12	15	20
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

P オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
TXピンロックプローシールド	ライトスモーク	031432
	クリア	031430
	スモーク	031431
TXピンロックシート120(クリア)		011081
TX-2バイザー	アルミナシルバー	092051
	グラスホワイト	092052
	グラスブラック	092053
	フラットブラック	092057
TXホルダー	スモーク	043093
	アルミナシルバー	043091
	グラスホワイト	043998
	グラスブラック	043999
	フラットブラック	043995
TX-2バイザー ワッシャー	クリア	112470
	アルミナシルバー	112471
	グラスホワイト	112472
	グラスブラック	112473
	フラットブラック	112477
TXネジ3(ネジセット)	白	112450
	クリア	112451

パーツ名	部品番号
TDFダクト3	スモーク
	アルミナシルバー
	グラスホワイト
	グラスブラック
	フラットブラック
MD2カバー	スモーク
	アルミナシルバー
	グラスホワイト
	グラスブラック
	フラットブラック
TX-3システム内装	II-10mm
	II-7mm
	III-10mm
	III-7mm
	IV-7mm
TX-3システムパッド	12mm
	15mm
	20mm
	25mm
	30mm
	冷・乾ストラップカバー(クールグレー)
	073606

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行なっていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカタログやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

内装生地のコットン化について

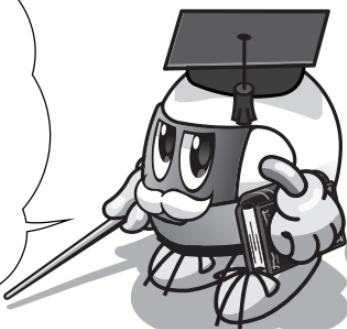
ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理課で受け付けています。

アライヘルメット品質管理課

☎ 048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）

コットン生地への変更は
着脱式内装のみに行われます
コットン生地は
ブルー系の色となります





Racing Specialities



株式会社アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎048-641-3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）